

平成24年8月12日(日)

産経新聞

号外

産業経済新聞(サンケイ)
THE SANKEI SHIMBUN
発行所 ©産業経済新聞東京本社2012
〒100-8077東京都千代田区大手町1-7-2
☎東京(03)3231-7111 (大代表)



村田「金」

男子ミドル級

決勝で相手の顔面に右ストレートを決める村田(右)。
ボクシングで48年ぶりの金メダルを日本にもたらした
—エクセル(鈴木健児撮影)

ボクシング 48年ぶり



ロンドン五輪第16日の11日(日本時間12日朝)、ボクシング男子ミドル級決勝で村田諒太(東洋大職)が14-13の判定でエスキバ・ファルカン(ブラジル)を下し、優勝した。

ボクシング競技で日本が金メダルを獲得するのは1964年東京大会バンタム級の桜井孝雄以来で、48年ぶり2度目。今大会では男子バンタム級の清水聡(自衛隊)が獲得した銅メダルと合わせ2個目のメダル。

今大会の日本選手団の金メダルは柔道女子57kg級の松本薫(フォーリーフジャパン)、体操男子個人総合の内村航平(コナミ)、レスリング女子48kg級の小原日登美(自衛隊)、同63kg級の伊調馨(ALSOの伊調馨(ALSO K)、同55kg級の吉田沙保里(ALSOK)と合わせ6個となった。また今大会で獲得したメダル数は計37個となり、過去最多だった2004年アテネ大会と並んだ。

村田は決勝で効果的に相手のボディを攻め、第1ラウンドを5-3として第2ラウンドは距離を取って連打を放つ相手に盛り返され、1秒差に詰められたが、最終第3ラウンドは相手が反則を取られたこともあってしきりだった。

昨年の世界選手権(アゼルバイジャン・バクー)で銀メダルを獲得し世界ランク2位の村田は、10日の準決勝では元世界王者のアボス・アトエフ(ウズベキスタン)を13-12の判定で下し決勝進出。銀メダル以上を確定させていた。



産経新聞購読のお申し込みは ☎ 0120-34-4646

MSN産経ニュース <http://sankei.jp.msn.com>